
しゃべくりトーク！

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「」のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しゃべりテーク!

[$\tau_d - \Gamma Z$]

N 5242 Z

【作者名】

izumi

【めりすじ】

トーキュウ小説が始まった！！スマブラ&らきすた&オリキャラからの7人が毎回知らされていないゲストたちと一緒にトーキュウを繰り広げる！！ボケあり、ツッコミあり、笑いあり！！とりあえず面白ければ何でもアリ！！ついでトーキュウ小説、はじまるぞおおおおお

操縦と並ぶ次の自己紹介（前書き）

新たに始まつたこの小説！！

ネタどうしようか…。

挨拶と会話の自己紹介

アイク「…何だここは？」

とあるスタジオに集められた7人の…。

こなた「何で逃走中の雰囲気？」

かがみ「ってか何よ此処…。」

レギュラーたち。

アイク「レギュラー…？」

あれ？地の文の会話聞こえてるみたいだね。

アイク「何だこいつ！？」

マルス「いきなり始まつて何ですかこれ？」

ちなみに、今いるのは…。

アイク「俺と。」

マルス「僕と。」

こなた「私と。」

かがみ「あたしと。」

つかさ「私と…。」

涼平「俺と。」

椎名「私です。」

…。

アイク・マルス・こなた・かがみ・つかさ「誰ー!?」

あ、そいつらは僕のオリキャラの…。

涼平「初めてだね。秋神涼平です。」

椎名「雷文寺椎名です。」

こなた「ふうん、そうなんだ。」

かがみ「納得するー?」

マルス「所で…これは何?」

「これは新しい小説なんだよ。」

アイク「ほおー…で、テーマは?」

トーク小説だね。

マルス「で、誰相手にトークするの?」

ゲスト相手に。毎回ゲスト呼んでゲストと一緒に楽しめてトークを繰り広げるんだよ。」

こなた「まさかゲストは毎回秘密!…?」

そうだね。これ元がある番組だから。

こなた「ポジションは?」

それはそちらで決めちゃって!」

かがみ「何でだよ!…?」

こなた「まあ毎回やればそのうち決まるか。」

涼平「そうだね。」

椎名・かがみ「何でそつ受け入れられるの!…?」

こなた「じゃあ次回からこのパートナー始まります。」

椎名「コーナーなのこれー? ボーナー扱いなのー! ?」

アイク「ゲストはさつき聞いたけど毎回秘密だそうだ。」

マルス「さつき言ってたよねー? 先ほど聞いたことだよねー?」

つかさ「次回から始まりますので…。」

7人「見て下さいーー!」

挨拶と自己紹介（後書き）

最初のゲストは……誰だ！？

第1回目（前書き）

一体どうなる第1回目…！

果たして最初のゲストは…？

第一回

こなた「始まりました。」

アイク「もう不安しかないんだが……。」

マルス「全くだね。」

つかさ「あはは……。」

こなた「不安と言えば……。」

アイク「……。」

マルス「……。」

かがみ「……。」

つかさ「……？」

涼平「……。」

椎名「……。」

……。

こなた「誰も無いの?」

アイク「…では、最初のゲストお呼びいたしましたか…。」

かがみ「？」

カンペが出されたので確認するかがみん。

かがみ「誰がかがみんだ！」

こなた「照れちゃって～。」

かがみ「つるやーーー！」

マルス「僕がカンペ見ましょうか…えっと…ゲストの方は3人組だ
って。」

アイク「3人組…？」

こなた「ありきたりなパターンだね。」

涼平「もう呼ぶか。」

椎名「そうですね局長。」

アイク「ではゲストの方、この方たちでーす。」

銀時「よ～テメエら。」

神楽「私たちが呼ばれたアル！！！」

新八「よろしくお願ひします！！！」

登場したのはこの3人だ。

アイク「ゲストは万事屋の3人衆でーす！」

第1回目のゲスト『坂田銀時・志村新八・神楽』

銀時「しつかし俺たちが最初のゲストでいいのか？」

マルス「そだつたら帰りますか？」

アイク「まあその方が楽だからな。」

銀時「よっし、じゃあ帰るか。」

神楽「帰つて酢昆布たくさん食べるネ！」

銀時・神楽以外「いやいやいやいやいやいやいや……！」

新八「此処は「何で帰らないといけないんだよ！」的なノリをする

所でしょー? 何で真に受けているんですかー? 「

銀時「いや、帰るかつて聞かれたから…。」

アイク「場の空気を読め天パー!!」

銀時「ああん!? 誰が天パーだ!! 好きでこいつなつたわけじゃねえからな!!」

マルス「ああもう早く席に座りましょー!..」

かがみ「ゲストは坂田銀時さん、志村新ハさん、神楽さんの3人です。」

観客「わああああー!!!!」

銀時「なんか…恥ずかしいな…。」

新ハ「そうですね…。」

神楽「お前ら情けないアルなー。こいつの時はでかい態度でいるのが基本アルよ。」

涼平「もう少し態度はよくした方がいいぞ。」

かがみ「えーなんか聞きたいことはありませんか?」

アイク「俺聞きたいことがあるな。」

かがみ「んじゃアイクさん！」

アイク「お前らってさ…バカ？」

銀時「何しょっぱなからとんでもねえ事聞いてんだーー！」

神楽「そうアルね！！」

アイク「いや…巨大エイリアンに向かつて白い犬と木刀だけで向かって食われたり、猿に汚いもの投げつけられたり、ご飯に小豆だけやマヨネーズだけかけたり、金色のカブトムシに滅茶苦茶でかいカブトムシで挑んでいたり、ストーカーがいるし、ともかくまとめるとバカだし…。」

銀時「いろいろ言つたあとに酷い」と言つた…！

マルス「そう聞くとバカしかいないね。」

涼平「バカだな。」

椎名「後変な白い生き物（多分エリザベスのこと）もいるし…。」

つかさ「どんな人たち…？」

かがみ「つかさ、最後のは人じやないと思うからね。では此処でコナーに突入します！」

銀時「え？コーナー何かあるの？」

かがみ「ありますよ。」

神楽「どうぞアル！」

かがみ「では行きます！『質問トーク』！」

そうかがみが叫ぶとスタジオの舞台でから上方YeosとZooと書かれたボードが出てきた。

新八「何ですかそれ！？」

かがみ「これはメンバーから質問が来るのでそれをYeosかZooの二択で答えていただき、Yeosと答えた質問に答えていくコーナーです。」

銀時「何だよそりゃ……。」

かがみ「では、メンバー6人にこれを配つてください。」

そして、配られたのはペンと、質問ボードだった。

かがみ「では、質問をお考へください。」

こなた「はい。」

かがみ「えー？早ー！」

こなた「まあ最初だから軽く行きましょう。」

涼平「そつだな。」

こなた「質問はこれ……。」

『秋葉原に行きたい?行きたいって言つなら私が案内してあげるよ。』

『

かがみ「でやあああああー……………」

ド「ッ

こなた「あーーーーーーーー。」

かがみに思いつきしぷシッ「//をへりたこなたは前の方に行き…。」

こなた「ユーバースーーーーー。」

某アニメのセリフを言つた。

かがみ「何それ!?」の質問は無しといふことで…。』

新八「教えて下さいーーー。」

かがみ「つるさこメガネ!ーー。」

新八「メガネって何だよーー。」

アイク「俺行きます。」

かがみ「あーんじやど、うわ。」

アイク「これならいいけるだろ?」

『一番迷惑だと思う奴は誰?』

銀時「ああ！？」

かがみ
— YesかNoか! —

どうちだ！？

銀時「……」されは、いいんじやないか?」「

Y
e
s

觀客「おお————！」

かがみ「YeSですか…どんな答えが出るんでしょうかね。次！」

つかね「はい。」

かがみ「つかせ…? どんな質問…?」

つかれ「え~と...」ね。

『一番樂しかったのは「じんな」と「』

かがみ「では、お答えください。」

「うう…？」

銀時「Yes。」

Yes

かがみ「まあそつややうね…。」

涼平「俺も行かせるー。」

かがみ「はいはい。質問は？」

涼平「これだ…。」

『一番やばいと困った事は何…？』

涼平「これはこなるだろー。」

かがみ「ではうう…。」

新八「Yesで…。」

Y e s

かがみ「Y e sですか…では次。」

椎名「私から。」

かがみ「質問何ですか？」

椎名「噂で聞いたことあるんだけど…」「れどつ？」

『新八君って一回ゲームの彼女とキスしたって本当?』

新八「あつ…これは…。」

観客「えええ——————？？」

かがみ「マジ…？あ 答えは…？」

神楽「Y e sアル。」

新八「ええ…？此処はN oでしょ！？」

神楽「黙るアルダメガネ。」

ダメガネ「なんだよダメガネって…って名前の所…！！作者…
！！！」

「めん」「めん入力ミス WWW

新八「絶対にわざとだら…。」

かがみ「ここの質問でいいですか?」じゃあ一つずつ聞いて行きます。」

アイク「まずは『一番迷惑だと思つ奴は誰?』か。」

涼平「誰なんですか~?」

銀時「俺は…ジラだな。毎回毎回めんどくせえんだよ…。」

こなた「ジラじゃないこなただ!」

新八「何真似してるの!~?」

マルス「で、メガネは?」

新八「メガネって言うな!!僕は近藤さんですよ…姉上へのストーカー行為はやめてほしいんですね…。」

椎名「殴られても憲りないねあのクソは。」

新八「クソって…。」

神楽「私はドS野郎アル!!あいついつか…。」

椎名「神楽ちゃん?顔が怖いよ?」

かがみ「次の質問にいきますか?」

新八「一番楽しいことですか？」

銀時「別に無しでいいんじゃないかな?」

新八「何でですか！？」

銀時「いや、本当に…。」

神楽「だから新八はいつまでたつても新八なんアルよ。」

新八「何それ！？」

アイク「もう次行くぞ。」

銀時「いりちも無しでいいな。」

新ハーモニカ

銀時「いや、次の事聞きたいだろ？」

全員 あ

新八「え…何この空氣…。」

かがみ「じゃあ次行きましょう！」

新ハニカムノアリテシテアリ――――――――――

かがみ「これ聞いたいんですけどね……この真偽は……？」

新八「えっと… 本当です。」

観客「ええええええ……………」

アイク「何だと……………？」

涼平「すいこね～。」

観客「ヒコーヒコー……」

新八「あんまりはやし立てないでくださいよ…。」

かがみ「えー… では時間がやつてしまひましたので、此処で終わりにさせてもらいます。」

新八「え!？」

かがみ「3人どうでしたか?」

銀時「いやー楽しかったな。」

神楽「また来たいアル!」

かがみ「そうですか。 ではまた次回、お楽しみに～。」

新八「ちよつとおおおおー……………」

第一回目（後書き）

次回へ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5242z/>

しゃべくりトーク！

2011年12月17日22時57分発行